

1. わが国の経済生長につれ産業構造に大きな消長が見られるようになった。

産業を普通第一次、第二次、第三次と分類するが、現在のわが国は第一次産業の農、林、畜産、水産から第二次産業の商、鉱、工、製造、土木建築、電気ガスに移り、特に工業の比重が著しく増大するに至り、それが直接間接の誘因をなし第三次産業を盛ならしむるとともに人口都市集中化の一大要因をなした。従ってこれら工業都市及び近郊はもとより隣接する府県にまで住宅開発が進み、いわゆる団地が到るところに見られるようになり、必然的に付随する公害をはじめ各種問題が見られるようになった。

団地は単なる住宅の集団ではなく必ず付設すべき各種施設が考えられなければならない。

2. その中の一つ児童学の分野から見た児童遊園地について地方自治体が造成した公営、或は住宅公団の手になるものの中から例を取り出し検討批判を加えたものである。

3. 従来機会ある毎に各地の団地を調査したが現状は必ずしも満足すべきではなく、まだまだ充足、改善すべき点の多いことを指摘し得る。教育行政面、社会行政面からその築造に万全を期したいと思うものである。